

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 森ビル株式会社 MORI Building DIGITAL ART MUSEUM 企画運営室 室長  
御名前 杉山 央 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

<是非すべきこと>

- デジタル技術によりコンテンツの表現方法が多様化している中、ここに来ることでしか経験することができない体験を提供すべきである。完成したプロダクトの展示 (=企業の製品発表のような場) はインターネットで情報を取得するのと同義になりつつある。
- どこにいても情報が容易に手に入り、疑似体験が簡単にできる時代であるからこそ、人はより価値ある情報、リアルに集まる価値のある場所、コミュニティが生れる場所を求めている。体験者の行動や体験者同士の相互作用によって展示やその空間にそのものに影響を与え、コンテンツが変化・完成するようなライブ型の演出にも期待したい。  
→これらの要素が揃うことによって、世界中から大阪・関西万博に足を運ぶ意味が作り出されることに違いない。

<参考 : MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless>

- 18年6月に開業した「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」は来場者200万人に迫る勢い。4割が海外からのお客様であり、うち半数が「本施設のために東京に来た。」といったアンケート結果になった。※2018年11月時点
- 世界中から多くのお客様を集めている理由として、世界の優れた文化施設等を表彰する Themed Entertainment Association (TEA) は、“この美術館の体験は美しく、年齢や国籍に関係ない。さわったりすると作品が変化する等の物理的なインタラクションと高度なマッピング技術の組み合わせは、シンプルであり革新的だ。技術的な複雑さと「探索し、さまよい、発見する」の体験のクオリティの高さは、業界のゲームチェンジャーとなる。”とを受賞理由を説明している。※TEAが表彰する「THEA Award」を19年4月に当館が受賞。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例 : 最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 最先端技術等の紹介だけではなく、テクノロジーの発展・浸透により世界がどのように変わる可能性があるかまで示して欲しい。それをみた若い世代が、先端技術の研究・テクノロジーの社会実装に興味をもつ切欠になることを期待したい。

**3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。**

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 混雑緩和のための入館パス・整理券の電子化は最低限やるべき項目である。

※teamLab Borderlessでは、チケット購入→入館パス発行→ゲート認証の一連の流れをモバイル端末で完結する独自サービスを開発した（8か国語対応）。これにより混雑解消がおこなわれ、待ち時間を少なくさせることに成功した。

**4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。**

- 世界的な人口増加と環境破壊・エネルギー問題、社会情勢の不安、国内での少子高齢化・経済のシュリンクなど将来へのネガティブな要素が取り巻いていることも事実であるが、2025年大阪・関西万博では、明るい未来・将来への希望を示すものにして欲しい。60年大阪万博がそうであったように万博を体験した若者が語り継ぐようなものになることが大切。その為にも大きなヴィジョンを示すと共に、テクノロジーによってどのように世界が変わるかを具体的に提示することが重要になるだろう。

以上